

令和7年度 第1学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での 達成度
国語	知識及び技能	単元テストの結果、8割の児童が正答率が90%以上であり、1割の児童が正答率70%未満だった。文字の読み書きに課題がある児童が一定数いる。	各教科等でノートやワークシートを活用し、文字を書く機会を多く設け、文字の習得を図る。漢字練習はテストを活用し、反復練習をする。	単元テストの正答率が90%以上の児童が8割、70%未満の児童1割以下を達成する。	
	思考力、 判断力、 表現力等	単元テストの結果、7割の児童が正答率90%以上であり、1割の児童が正答率70%未満だった。内容を正しく捉えられないことが課題である。	課題を見付け、文章の構成を意識し、読み解く学習活動を計画的に実施する。	単元テストの正答率が90%以上の児童が8割、70%未満の児童1割以下を達成する。	
	学びに向かう力・ 人間性等	文章を読むことが苦手だったり、幅広く読書をすることができていなかったりする児童がいる。	読み聞かせや読書、音読等を計画的に行う。	アンケートを実施し、自分の意見を伝えることができると回答する児童が8割にする。	
算数	知識及び技能	単元テストの結果、7割の児童が正答率90%以上であり、1割の児童が正答率70%未満だった。長さの比較等に課題がある。	具体物を操作する活動や数量感覚を養う体験的な活動を計画的に取り入れることで、習得できるようにする。	単元テストの正答率が90%以上の児童が8割、70%未満の児童0を達成する。	
	思考力、 判断力、 表現力等	単元テストの結果、7割の児童が正答率90%以上だった。文章問題を最後まで読まずに解いていることで、誤答につながっている児童が一定数いる。	文章問題を扱う際にキーワードとなる言葉に印をつけたり、既習内容を確認したりすることで、正しく読み解くことができるようとする。	単元テストの正答率が90%以上の児童が8割、70%未満の児童1割程度を達成する。	
	学びに向かう力・ 人間性等	課題把握ができず、誤答を怖がったり、自分の意見に自信がもてなかつたりと、進んで挙手ができない児童がいる。	ペア交流の後、学級全体で交流するなど、発表する場面を段階的にとり、自分の考えに自信がもてるようとする。活動の振り返りを実施し、問題解決ができたことを実感できるようにする。	アンケートを実施し、自分の意見を伝えることができると回答する児童が8割になる。	
考察					

令和7年度 第2学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での 達成度
国語	知識及び技能	漢字の書きや書き順の定着をさらに進める必要がある。	週に1回程度漢字小テストを行い、十分に身に付いていない漢字は習得するまで繰り返し練習する。	単元テストや学期末のテストで、8割の児童が正答率90%を達成する。また、正答率70%未満の児童の数を0にする。	
	思考力、 判断力、 表現力等	場面の様子を読み取って抜き出すことや文章中の説明にそって空欄に合う内容を書くことなど、「書くこと」「読むこと」に課題が見られた。	授業の中で、場面の様子や説明文の内容を読み取る活動を意図的計画的に行う。 週に一度日記を書く活動を行うことで、文章の構成を意識し、書く力を高める。	単元テストや学期末のテストで、8割の児童が正答率90%を達成する。また、文章の構成を意識し、内容を整理して日記を書けるようにする。	
	学びに向かう力・ 人間性等	授業や家庭学習で繰り返し読むことで、文章の内容を読みとることができているが、初めて目にした文章を読む力、粘り強く取り組む姿勢が不十分である。	図書の時間での読書活動において多様なジャンルの本を読む機会をつくる。	9割の児童が物語文や説明文の本を月に3冊以上読むようにする。	
算数	知識及び技能	計算等の技能は概ね身に付いていると言えるが、「図形」や「測定」などの問題では目標値に対する達成率が低く、課題が見られた。	具体物を操作する活動を多く取り入れ数量感覚を養うこと、デジタル教科書や拡大図を使用して形を認識しやすくすることを意図的計画的に行う。	単元テストや学期末のテストで、9割の児童が正答率90%を達成する。また、正答率70%未満の児童の数を0にする。	
	思考力、 判断力、 表現力等	短答式や選択式に比べて記述式問題の正答率が低く、考えを言葉で説明することに課題が見られた。	授業の中で、自力解決の時間を十分に確保すること、考えを広げるために友達と交流し学び合う時間を確保するなど、児童が表現するための機会を多く設ける。	単元テストや学期末のテストで、8割の児童が正答率90%を達成する。	
	学びに向かう力・ 人間性等	「難しい」「分からない」と感じる問題にも粘り強く取り組み、既習事項を使って自分なりに答えを出そうとする姿勢が不十分である。	一人一人が自力解決できるよう、既習事項を掲示したり、具体物などの教具を用意したりするなどの支援を行う。	授業中の様子やノートへの記述などを観察した結果、8割の児童が自分の考えを図や言葉や式を使って説明することができるようになる。	
考察					

令和7年度 第3学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での達成度
国語	知識及び技能	漢字の書き順や文中の主語と述語を正しく捉えることに課題がある。	新出漢字の学習の際は、正しい書き順を教師と児童で確認してから、反復練習をさせる。漢字の書き取りの小テストを行い、習得状況を確認して復習させる。主語や述語にかかる学習を丁寧に行ったり、主語や述語を意識した短文づくりを行ったりする。	単元テストや学期末の「漢字・言葉」のテストで、8割の児童が正答率90%を達成する。また、正答率50%未満の児童を0にする。	
	思考力、判断力、表現力等	文章を読んだり聞いたりして内容を正しく捉え、問われていることに対して的確な文章で表現して答えられるようにすることが課題である。	説明的文章の学習で、要点を端的にまとめ、物語文で登場人物の気持ちを考え記述したり、互いの意見を聞き取り伝え合ったりする学習を隨時行う。また、学習の振り返りを文章で書く経験を積ませる。	単元テストで思考力、判断力、表現力にかかる正答率90%以上を7割の児童が達成する。また、正答率50%未満の児童を0にする。	
	学びに向かう力・人間性等	漢字の学習に根気強く取り組むことに課題がある。長文を丁寧に読んだり、思いや考えを文章に書き表したりすることを定着させる必要がある。	1時間の流れを提示し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。スマートルステップで学習を進め、児童同士で認め合ったり、評価を児童に返すようにしたりする。	授業中の児童の様子、ノートへの記述の様子などを観察した結果、9割の児童がノートに自分の考えを書けるようにする。	
算数	知識及び技能	繰り下がりのあるひき算や単位の換算を定着させる必要がある。図形の弁別を確実にできるようにすることが課題である。	既習の四則演算を復習プリントを活用し、計算の仕方の定着を図る。定義に基づいて図形の構成要素に着目させる。eライブラリも活用し、様々な単位の換算を復習させる。	単元テストや学期末のテストで、正答率90%以上を、9割の児童が達成する。また、正答率60%以下の児童を0にする。	
	思考力、判断力、表現力等	式から場面の数量関係を捉える力を身に付けることが大切である。また、立体図形の見えない部分がどのように構成されているか認識することが課題である。	四則の概念を身に付けるために、具体的な場面から立式したり、具体物の操作を行ったりする。立体図形についても、積み木などを活用して見えない部分について確認する。	単元テストで正答率90%以上を8割の児童が達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	選択式、短答式の問題を得意とする児童が多くいる。記述式の問題に進んで取り組むことが課題である。	図や言葉で説明する際、隣の児童と相談する時間を確保し、自信をもって発表できるようにする。場面を図や言葉を使って説明する時間を取り入れる。ペア学習を行い、説明し合う時間を増やす。	授業中の児童の様子、ノートへの記述の様子などを観察した結果、7割の児童が自分の考えを場面や図や言葉を使って説明できるようにする。また、友達の考え方を参考にして、自分の考えを説明できるようにする。	

考察	
----	--

令和7年度 第4学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での達成度
国語	知識及び技能	漢字の意味とへん、漢字の音とつくりにつながりがあることを理解することに課題がある。	漢字を学習する際、へんやつくりに着目し、漢字の意味や音と合わせて指導を行う。また、へんが変わると意味が変わる漢字を取り上げながら学習を進める。	学力調査や単元テストにて、「知識及び技能」に関する問題(特に、へんやつくり)の正答率が90%に達する。	
	思考力、判断力、表現力等	重要な語句に着目しながら、要約することに課題がある。	文章を読み取る際、筆者が一番伝えたいことを常に考えさせながら文章を要約したり、段落相互の関係を図で表したりしながら説明文を分析する学習を進める。	学力調査や単元テストにて、記述式の問題に対する正答率が70%以上に達する。	
	学びに向かう力・人間性等	自分で考えたことを書くことに苦手意識を感じている児童が多く見られ、表現することをあきらめてしまうことが課題である。	おすすめの本の紹介を100字で行うなど、短い文章づくりをする。短い文章で伝えたいことを考える経験を多くさせるように学習を進める。	記述式問題に対する無答の人数を0にする。	
算数	知識及び技能	グラフの読み取りや比較することに課題がある。	棒グラフや折れ線グラフの学習をする際は、グラフを記入した後、他のグラフと比較しながら共通点や違異点を見つける活動を多く取り入れる。また、社会科でもグラフを見る機会を増やすために、積極的に資料提示を行う。	学力調査や単元テストにて「グラフの読み取り」の問題に対する正答率が70%に達する。	
	思考力、判断力、表現力等	文章を読み、計算の工夫について考えることに課題がある。	授業の中で式を見て、どのような考えをもって立式したか、言葉で表現したり、友達の式と自分の式を比較して違いを説明したりする時間を確保し、思考力を高める学習を進める。	学力調査や単元テストにて「式から考え方を推測する」の問題に対する正答率が8.6%アップに達する。	
	学びに向かう力・人間性等	四則計算など、基礎的な力を身に着けていないために問題が解けないことで、算数への苦手意識が強くなる傾向がある。	毎時間の学習のはじめに、その日の学習に関わる既習事項を確認することで、主体的に活動が進めることができるようにする。	選択問題に対する無答の人数を0にする。	

考察	
----	--

令和7年度 第5学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での達成度
国語	知識及び技能	「漢字の書き取り」「修飾語の使い方」について、定着度を高めていく必要がある。	意図的に漢字練習する機会を増やす。作文や日記指導にて、既習漢字を使用するよう指導を徹底する。文法の単元学習にて、主述関係、修飾被修飾関係について改めて確認し、問題演習を繰り返すとともに、作文や日記に活用できるように支援する。	学力調査や単元テストにて、「知識及び技能」に関する問題(特に、漢字や文法単元)の正答率が70%以上の児童数が7割に達する。	
	思考力、判断力、表現力等	物語文や説明文の読み取り、「相手や目的を意識し、伝えたいことを明確にして書くこと」「自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書くこと」について課題が見られる。	物語文の学習では登場人物の気持ちを叙述から読み取ること、説明文では要旨をまとめるについて、友達と見合う話し合う等、学びを深める工夫をする。相手や目的、伝えたいことを強く意識するとともに、構成を考えて書く指導を進める。	学力調査や単元テストにて、「思考力、判断力、表現力等」に関する問題(特に、物語文、説明文、書くこと)の正答率が70%以上の児童数が7割に達する。	
	学びに向かう力・人間性等	作文や日記、授業でのまとめ等にて、既習の漢字や新しく学んだ言葉を積極的に使おうとする態度を育成する必要がある。	児童が努力したことを教師が認める機会を意図的につくり、自信をもてるようにする。文字数を指定せず、自分の書ける範囲で書く経験を積ませ、書くことに対する抵抗感を少しでも減らす。	作文や日記、文章にまとめる学習において、8割以上の児童が自分の考えや思いを書いたり、既習事項を生かして書いたりできるようになる。	
算数	知識及び技能	「概数、分数、わり算、作図問題」の正答率を高める必要がある。	意図的に概数やわり算の筆算等を使う場面をつくりだしたり、ドリレやワークシートにて計算練習や問題演習する機会を増やしたりする。学力推進ティーチャーと連携して個別に対応し、問題を自力で解く経験を積めるようにする。	学力調査や単元テストにて、「知識及び技能」に関する問題(特に、概数、分数、わり算、作図)の正答率が70%以上の児童が7割に達する。	
	思考力、判断力、表現力等	「計算のきまりを理解し活用すること」「折れ線グラフを正しく読み取ること」に課題がある。数直線を利用して立式する力を高めていく必要がある。	計算のきまりを活用する問題の解き方、グラフから得た情報の整理の仕方、数直線を利用して立式する方法を児童が説明する機会を意図的に増やすとともに、その指導に重点を置く。	学力調査や単元テストにて、「思考力、判断力、表現力等」に関する問題(特に、計算のきまり、グラフの読み取り、立式)の正答率が70%以上の児童が7割に達する。	
	学びに向かう力・人間性等	問題の解決方法を自分で見い出そうとする意欲を高めていく必要がある。学習に対する意欲を持続させていく必要がある。	問題に取り組む姿勢を教師が認め、個別に解き方のヒントを伝えたりアドバイスを送ったりし、児童の学習に対する意欲を持続できるようにする。問題を解くことができた経験を意図的に数多く積めるようにする。	最後まで諦めずに問題を解こうと努力する意欲をもち、問題に対する答えを記述する児童が8割以上に達する。	
考察					

令和7年度 第6学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での達成度
国語	知識及び技能	「漢字を文中で正しく使うこと」「情報と情報との関係付けの仕方、関係の表し方を理解し使うことができる」ことが課題である。	同音異義語が教科書や漢字テストで出たときに、意図的に他の同音異義語を取り上げる。文章を書く際に叙述に即した漢字を使用できるよう指導する。	学力調査や単元テストにて、知識及び技能(特に、漢字の書き)に関する問題の正答率が80%以上の児童数が8割に達する。	
	思考力、判断力、表現力等	「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること」が課題である。	文章とグラフや表をどのように読むかを例示したり、学級全体で取り組んだりして、正しい読み取り方を指導する。ペア学習を取り入れ、より良い読み取り方に気付けるよう指導する。	学力調査や単元テストにて、思考・判断・表現(特に、話すこと、書くこと)に関する問題の正答率が80%以上の児童が8割に達する。	
	学びに向かう力・人間性等	問題の解決方法が分からない、解決に向かう手順の見通しがもてない児童が見られる。	単元計画を立て、単元や本時の見通しをもたせるようにする。スマーブルステップで進めたり、グループ学習で他者の課題解決の仕方をアドバイスし合いながら進めることで、主体的に学習に取り組めるようにする。	9割以上の児童が、授業中の課題に対する取り組み方や最後まで諦めずに問題を解こうとしたり、先生や友達に聞いたりする様子が見られる。	
算数	知識及び技能	平行四辺形の性質を基に、作図することが課題である。	図形の性質を色分けした資料を提示したり、ICTを活用したり、視覚的に分かりやすくする。作図の時は、作図の見通しを立てたり、スマーブルステップですすめたりする。授業の最後に自身の考えを振り返したり、友達と比較する時間を設ける。	学力調査や単元テストにて、知識及び技能(特に、図形)に関する問題の正答率が70%以上の児童が8割に達する。	
	思考力、判断力、表現力等	「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を記述することが課題である。	つまずき(基本図形の公式、図形の分割の仕方など)がどこなのかを見極め、支援方法を変える。手順を教師が手本を見せたり、説明するときの語句を例示したりする。	学力調査や単元テストにて、思考・判断・表現(特に、数と計算、図形、変化と関係)に関する問題の正答率が70%以上の児童が8割に達する。	
	学びに向かう力・人間性等	問題の解決方法を説明するときに、学習到達度が高い児童は、解答はできていてもその理由や根拠が説明できず、習熟度が低い児童はすぐに諦めてしまう傾向が見られる。	正答だけを重点とせず、言葉や数直線、図を用いて児童の思考を言語化、視覚化した板書を行う。諦めてしまう児童に対しては、教師が説明の補助や補足をして、発表を肯定的に捉える雰囲気づくりに努める。	全員が課題に対して、自分なりの考えをもって答えを導きたそうと努力していることが、ノートや発表、発言から見て取れる。	
考察					